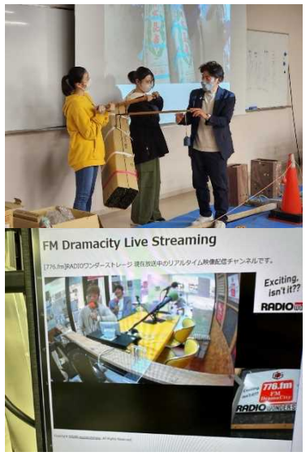
【三石地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●水産学習の推進・食育の推進

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域MVにおける取組の位置付け	高齢化・担い手確保の抜本的対策 地産地消の推進・漁業文化の継承 取組場所 	【取組の様子】
現状における取組実施の背景	ひだか漁業協同組合三石青年部からの要望を受け、平成１９年度より本事業を実施しており、日高地区水産技術普及指導所静内支所などの協力を得て実施。 令和３年度より、ひだか漁業協同組合三石青年部の休止を受け、ひだか漁業協同組合三石昆布組合の有志により活動を継続中。	
取組により期待する効果	後継者対策、魚食普及	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	実施体制：ひだか漁業協同組合三石昆布組合、ひだか漁業協同組合三石女性部、ひだか漁業協同組合三石支所、日高地区水産技術普及指導所静内支所、三石地域MV協議会（町水産係）、日高振興局(水産課・農業高校のみ) 共通事項 　学校側との協議（要望確認）、実施体制側の情報共有・原稿の読み合わせは必ず実施。 　パワーポイントにて、新ひだか町三石地区で行われている漁法、昆布漁の一連の流れなどを座学で実施。 　座学終了後の体験学習では、昆布漁に係る漁具や段昆布を基本とし時期や受講する生徒数に応じて実施内容を変更。 ①静内農業高等学校(新規)_令和５年１０月４日開催_１年生６３名 　静内農業高等学校から日高振興局へ、一次産業を通じて地域を学ぶ取り組みを行いたいと意向を受けたことから、水産業については地元漁業者による、出前授業を行いたいと当協議会に依頼があり今回の実施に至った。 　学校側から事前に授業内容等の希望があったこと、また、道内外から入学する生徒も居たため、今までの授業内容では資料が不足していたことから、漁業者及び日高振興局と協議を重ね授業の内容・構成を新たに構築した。 　座学については、水産業の衛生管理、新ひだか町の漁業やコンブ漁業、ブルーカーボンについてパワーポイントを交え説明を行い、体験学習では生徒を２班に分け、持ち込んだ漁具を使い操業時にどのように漁具を使っているかの体験学習等を行い漁業への理解増進を図った。 ②三石中学校（再開）_令和５年１０月１０日開催_３年生２０名 　料理講座にてサケを使った料理を学校側から希望されたが、女性部と漁模様を踏まえメニューを協議し、コンブを使ったお菓子（ガリ糖昆）づくりを行うこととし、テレビラジオパーソナリティーのとついようこ氏からの提案で、昆布出汁をとったみそ汁と出汁をとっていないみそ汁の味比べも併せて実施し、座学ではパワーポイントを使った説明と持ち込んだ漁具による体験学習を行い、漁業及び魚食への理解増進を図った。 　また、マリンバンク１２月号でとついようこの浜ばか通信にて、活動が紹介された。 ③北海道文教大学(再開)_令和５年１０月２６日開催_栄養教育論各論受講生２５名 　座学では、漁法の説明時に持ち込んだ漁具で使い方などの補足説明をし、コンブ漁の説明では栄養素についても説明し昆布の選葉体験をクイズ形式で行い理解増進を図った。また、とついようこ氏による、漁業の魅力について講話いただいた。 　また、翌日とついようこ氏がパーソナリティーを務めるラジオ番組にて、本活動の講師が出演し周知等を行った。 ④三石小学校_令和５年１１月１日開催_５年生２４名 　料理講座の要望を受け、女性部と協議した結果コンブを使ったお菓子（チョ昆布）づくりを実施し、座学と持ち込んだ漁具及び鮮魚による体験学習を行い漁業や魚食の理解増進を図った。 ⑤高静小学校_令和５年１２月４日開催_４年生６７名、６年生６８名 　児童が多く限られた時間で理解を深める対応として、事前に児童から漁業に関する質問をとりまとめ、座学で漁業の説明後パワーポイントや水産合羽を着たモデルや漁具を見せるなどをわかりやすく回答することで、理解増進を図った。	 R5.10.4_静内農業高等学校 R5.10.10_三石中学校

（3）効果項目に対する評価（Check）	
効果目標の達成度評価	・即効性の高い事業ではないことから、達成度は不明であるが、実施した学校からの感想は好評であることから、一定程度の効果はあると思われる。
反省点	・料理講座のメニューバリエーションの充実。
（4）取組の改善措置（Action）	
取組内容の改善点	・体験学習が割当された時間を超過することがあるため、生徒の行動を踏まえたタイムスケジュールを構築する。
取組の実施に必要なもの	



R5.10.26_北海道文教大学

R5.11.1_三石小学校

R5.12.4_高静小学校